

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

令和3年(2021)

皇紀2681年

新型コロナ禍早期熄滅退散祈願

大宮八幡祭り(秋の大祭)号【第121号】

<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

宮司巻頭言	2頁
大宮八幡祭り(秋の大祭)のご案内	3頁
十五夜の神遊び	4頁
杜の話題	5～8頁
大宮八幡の杜 秋も深まり	9頁
初宮詣芳名・どんぐり通信	10・11頁
大宮八幡祭り社頭風景	12頁



浦安の舞 舞姫参進

コロナ禍に馬上杯でピースフルネスを

大宮八幡宮宮司 鎌田紀彦

新型コロナ禍が終熄どころか、変異株のデルタ株（インド由来）やラムダ株（ペルー由来）等の感染者が急増し、東京では毎日4000名からついに5000名を超えた数が発表されております。第5波の到来により感染者が入院する病院も満床状況で、自宅待機を余儀なくされている方の報道もあり、医療崩壊をも感じさせる昨今であります。

当宮では、昨年3月より新型コロナ対策としてセンサー付の流水式手水舎改善を始め、色々と対策を講じてきましたが、今後もそのノウハウを生かしながら各々の対応を進めて参ります。又、ハード面では「密」を避ける為、外拝殿の床面積を約3倍に拡張し、賽銭箱も横5台に拡張、階段を使用せずにフラット状態のまま参拝して頂いております。更に、神門も車椅子用のスロープを幅広くとり、車椅子での参拝の方々に喜ばれております。出来るだけ多くの方々に、大神様のご神威を受けお帰りの頂けるよう努めております。

去る7月23日より国立競技場を主会場として開催されました。

開会当日の12時45分頃、当宮幼稚園園庭の上空をブルーインパルス（6機）が東から西へ、やがて西から東へ編隊を組んで飛行して行きました。残念ながら五輪のマークは見られませんでした。57年前の入社2年目の明治神宮で五輪のマークを見たことを思い出していました。

東京オリンピックでの日本の活躍は目覚ましく、メダルの獲得数は金27銀14銅17の計58個でありました。コロナ禍の闘いの中で団結の結果の表れでもあり、私共国民にも勇気と明るさを与えて頂き、主催国として面目一新されました。

さて8年前の東京オリンピック招致のプレゼンテーションで、日本人の「お・も・て・な・し」のことが大きく紹介されました。

大会期間中、改築された馬事公苑の3階に、裏千家淡交会の呈茶席が設けられ、淡交会東京第6東支部が担当となり、支部役員・会員等10名が毎日接待をするこ

とになりました。小生もご縁を頂き支部長の役を仰せ付かっている関係で、最終日の8月7日の夕方陣中見舞いに出向致しました。

接待所の3階奥は金屏風（二双）で間切られ、飛翔棚が設えられ、千玄室大宗

匠染筆の「馬上漫々人有共」の掛軸も掲げられ、御席のテーマは「人馬一体」。尚、大宗匠は、公益社団法人日本馬術連盟の会長をお務めます。

花入、蓋置なども馬にちなんだものばかり。干菓子も「五輪」を表し5色とも味が異なり、ひもで結ばれているものと四角い5色のお菓子が準備されていました。

数茶碗の独特な形は、戦国時代の武将たちが戦勝を祈って馬上で酒を酌み交わした馬上杯を模しています。

外国の方々も通訳付きのこの呈茶席を楽しんで下さっているようでした。

家元の指導方針「二碗からピースフルネスを」を将に実践していることにもなります。

何よりも「お・も・て・な・し」がご人馬一体の呈茶席にあると思えました。

午後7時、3階の窓側より見渡しますと煌々と照らされた眼下の馬場では、将に人馬一体の障害物競走の決勝戦が始まったようでありました。明日はオリンピック閉会式。あとは8月24日からのパラリンピックの成功を祈るばかりであります。

とは言え、この「おもてなし」の原点は神祭にあると思っております。

我が国は昔、豊葦原瑞穂国と呼ばれて



いたように農業立国であり、地域の人々は、共同で作業をしながら春に五穀の豊穰を神々に祈り（祈年祭）、秋にはその実りに感謝するお祭り（新嘗祭）をしてきました。又、その時に取れた稲の初穂や山幸海幸（農林水産物）の初ものを神々にお供えし、真心を尽くして感謝の「おもてなし」をして、その供え物を神々よりのお下がりと戴きました。「食べもの」の語源は神々の「賜わりもの」とされており、神々と同じものを頂き、神人共食して神々よりさらなるお力（生命力）（思頼）を頂いてきたという信仰生活であります。

いよいよ大宮八幡祭（秋の大祭）。9月14日の宵宮祭、15日の例祭併せ氏子奉幣祭、辞別新型コロナ禍早期熄滅退散祈願が近づいて参りました。

新型コロナ大禍の影響により、本年度も神輿合同宮入りが中止となりほとんど神賑行事も中止のやむなきに至りましたが、ご本殿に於ける祭儀はわかば祭り（春の大祭）の当日祭同様に神職並びに責任役員総代ら神社関係者のみ人数を制限してご参列を頂きます。例年同様に、神社本庁の献幣使参向を仰ぎ、氏子6地区からのご浄財を「氏子幣」として御神前に奉り、氏子奉幣使（祭礼委員長）が氏子祈願詞を奏上する大宮八幡宮ならではの伝統の祭礼が厳粛に斎行されます。一日も早いコロナ大禍の熄滅退散を祈り、併せて氏子・崇敬者の皆様のご多幸とご健勝を心より申し上げる次第でございます。（令和3年8月13日記）

（令和3年8月13日記）



開催について
賛否両論ある
中、コロナ禍
で1年遅れの
東京2020
オリンピックが

大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭併せ氏子奉幣祭 辞別新型コロナ禍早期熄滅退散祈願



長引く新型コロナウイルス ウイルス禍は今年になつてから何種類もの変異株と呼ばれる強い感染力、毒性を持つたものまで現れ、遂に4回目となる緊急事態宣言が東京都を始め複数の県に発令されました。

こうした事態を受け、責任役員はじめ関係者により今年の大祭の秋の大祭は昨年と同様に神輿合同宮入りを始め各種神賑行事は一部を除きやむなく中止することになりました。ご本殿における諸祭儀は案内規模の縮小は致しますが、地域の氏子、崇敬者の皆様

が幾世代にもわたつて厚い崇敬の心を寄せられてきた大宮八幡宮のご祭神への誠を捧げ、責任役員・総代ほか神社関係者が氏子の皆様を代表して参列し、厳肅に執り行うことが決定されました。

9月14日午後6時から宵宮祭、翌15日午前10時から神社本庁よりの献幣使の参向を仰いで例祭併せ氏子奉幣祭が斎行されます。殊に15日の例祭は当宮年間の諸祭儀の最重要儀であります。また、祝日法の改正以前は敬老の日に当たる15日が八幡様の御縁日で例祭に併せ氏子奉幣祭が斎行されておりましたので、その意味で、今年の例祭も旧儀に戻る形で斎行されることになりました。

式次第は先ずご本殿の御扉をお開き申し上げ、献饌・奉茶、宮司の祝詞奏上。次いで、全国8万の神社を包括する神社本庁よりの幣帛の献幣に続き献幣使の祭詞奏上。そして、大宮・方南南・方南北・和田東・和田西・松ノ木の氏子6地区から



草を束ねて鹿の形を作り距離を定めて稽古したことが始まりとされ、当宮では武家において正月4日の弓初めに行われた厳格な儀式である三九手挟式と隔年で秋の大祭に奉納されております。鹿の形的に当てるだけでなく、定められた所作や弓の基本姿勢、基本動作など体配を一つでも間違えれば外れとなるなど、鎌倉幕府が弓馬術の修練を通じて精神の到達点としての武士の道義の確立を図る中で様式が整えられたという貴重な歴史的背景を有しています。

小笠原流草鹿式
くさししき

草鹿式は將軍源頼朝が家人の弓の稽古の方法として草を束ねて鹿の形を作り距離を定めて稽古したことが始まりとされ、当宮では武家において正月4日の弓初めに行われた厳格な儀式である三九手挟式と隔年で秋の大祭に奉納されております。鹿の形的に当てるだけでなく、定められた所作や弓の基本姿勢、基本動作など体配を一つでも間違えれば外れとなるなど、鎌倉幕府が弓馬術の修練を通じて精神の到達点としての武士の道義の確立を図る中で様式が整えられたという貴重な歴史的背景を有しています。

寄せられた赤誠こもる淨財を氏子幣としてご神前にお供えし、氏子奉幣使(祭礼委員長)が氏子祈願詞を奏上、氏子一同の感謝の心をご祭神に申し上げ、子々孫々に至るまでのご加護を祈願します。更には新型コロナウイルス禍の早期熄滅退散をも祈願します。氏子が直接ご神前で祈願詞を奏上する祭典の趣旨、形式は他の神社でも極めて稀であり、大宮八幡宮氏子区域の氏子・崇敬者各位により代々伝えてこられた美風でもあります。

また、19日午前10時には若宮八幡神社・白幡宮の例祭が斎行され、午後1時より小笠原流宗家による弓の神事草鹿式が新型コロナウイルス禍早期熄滅退散を祈願して奉納されるほか、期間中、神門北翼廊では大宮八幡宮みどりの会主催の盆栽展が開催されます。



第21回 十五夜の神遊び(仲秋祭)	9月20日	中止
	9月19日	中止
	9月15日	中止
	9月14日	中止
	9月13日	中止
	9月12日	中止
	9月11日	中止
	9月10日	中止
	9月9日	中止
	9月8日	中止
9月8日夕刻	翌朝	中止
9月8日	中止	中止
9月15日	中止	中止
9月14日	中止	中止
9月13日	中止	中止
9月12日	中止	中止
9月11日	中止	中止
9月10日	中止	中止
9月9日	中止	中止
9月8日	中止	中止
9月7日	中止	中止
9月6日	中止	中止
9月5日	中止	中止
9月4日	中止	中止
9月3日	中止	中止
9月2日	中止	中止
9月1日	中止	中止

第23回 重陽の節句

菊被綿きくのかせわた



重陽とは陽数の極みである9が重なるという意味で、9月9日にこの季節に咲く菊を飾ります。菊は、古代中国では仙境に咲く花で破邪延寿の効能がある

あると信じられ、平安時代前期の宇多天皇の御代に菊被綿として宮中行事に取り入れられました。菊被綿は重陽の前日の9月8日に、菊の花を白、赤、黄の真綿で覆って菊の香りを移し、9日早朝朝露で湿った真綿を顔にあてて若さを保ち、菊の薬効により無病息災を願うもので、当時の贈答品として用いら



※複数燈でも承ります

大宮八幡祭り(秋の大祭)の期間中多くの参拝者をお迎えするに当たり、皆様方のお名前(ご社名)を入れた献燈提灯を掲出し、ご社頭を賑々しくお飾りさせて頂きます。つきましては、左記によりご献燈賜りたく宜しくお願い申し上げます。

献燈提灯奉納のご案内

記

掲出期間 9月6日から23日まで

初穂料 一燈一〇、〇〇〇円

申込締切 9月4日(郵送は3日必着)

※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。

第21回 十五夜の神遊び・月の音舞台



旧暦8月15日(本年は9月21日)の十五夜に合わせて、9月20日に第21回十五夜の神遊びが斎行されます。この十五夜の神遊びは平成13年より催されており、夕刻にはまず竹灯籠約1300基に陪観の人々によって火が献灯され、仲秋祭が斎行されます。それ

の後、神楽殿にて雅楽や神楽舞の奉奏に続いて、月の音舞台となり、演奏は昨年国内外で注目を集める尺八奏者きん乃はち氏です。きん乃はち氏の尺八の調べは、名月の清らかな光のもと虫の音とともに鎮守の杜に響き渡り、深く閑かに心に染み渡ります。



駐日米国臨時代理大使 表敬参拝及び弓道体験

6月9日、米国のジョセフ・M・ヤング駐日米国臨時代理大使が来宮、正式参拝を行なった後、弓道を体験しました。

ヤング氏は平成29年から在日米国大使館で首席公使を務め、令和元年からは臨時代理大使として活躍。6月16日に任期を終えて離任することから、思い出に深く残る日本的な経験を味わいたいとさまざまな場所を訪れて最後の数週間を過ごされてきました。正式参拝と弓道体験はそのうちの一つで、当宮の振武会門人と大使館スタッフとの間で計画が進められて実現しました。



午後3時30分頃、ヤング氏はチン夫人と二人の令嬢とともに神門前に到着。宮司、石川武夫師範、内田良子師範代に挨拶の後、社殿に進み、正式参拝を行いました。記帳の後、宮司より特製の鎗矢を贈呈。ヤング氏からは記念品が贈られました。

次に当宮弓道場・振武殿に移動し、石川師範と内田師範代の演武「持的射礼」を見学。続いて石川師範らから巻藁稽古、的の前稽古の指導を受けました。ヤング氏は巻藁稽古の際は矢にうまく弦の力を伝えられず落とされましたが、次第に上達され、的の前稽古では凛々しい弓構えをみせ、的の方向に矢を射られるまでになりました。



体験終了後、宮司、石川師範、内田師範代、振武会門人、大使館スタッフを交えて和やかに懇談。後日、在日米国大使館が動画共有サイト「ユーチューブ」等で公開したビデオメッセージの中で「最も気に入ったのはあの名高い大宮八幡宮で振武会の皆さんと弓道を体験したことです」「的に当たらなくても素晴らしい体験でした」と話されていました。

杜の話題

わかば祭り(春の大祭)斎行

本年のわかば祭り(春

の大祭)は、新型コロナウイルス感染症終熄を祈念して祭儀が厳粛に斎行されました。まず4月29日には、昭和祭を斎行。次いで1日には、躑躅育木祭並びに皇月朔旦祭を斎行。3日午前10時より、春の大祭第一日ノ儀が斎行され北辰二刀流玄武武館

宗家六世小西真円一之師による、新型コロナウイルス感染症終熄を祈念する「四方祓神前清めの太刀」が奉納されました。祭典終了後には、神楽殿にて北辰二刀流一門による武技が奉納されました。北辰二刀流玄武武館は、50年ほど前に、当宮の春の大祭に少年剣道大会を奉納されたご縁があります。



4日は、春の大祭第二日ノ儀を斎行。午後には、植樹祭(献木式)が当宮みどりの会主催により斎行され、祭典後には献木頂いた方々に観葉植物が授与されました。最終日の5日は、春の大祭当日祭(尚武祭)が斎行され、新型コロナウイルス感染症の熄滅、皇室国家の安泰・氏子崇敬者の繁栄・五



第21回茶道裏千家献茶式

第21回裏千家献茶式が5月8日に行われました。茶道裏千家今日庵鵬雲斎千玄室大宗匠(先代15代家元)ご奉仕のもと、厳粛にご神前に濃茶と薄茶が献じられました。また、大宮幼稚園では園児茶席が開かれ、来賓の園児達が、日頃の稽古の成果をお披露目しました。



神功皇后祭

6月3日、御祭神神功皇后の山陵狭城盾列池上陵を遙拝の後、神功皇后祭が宮司以下祭員奉仕により斎行されました。令和元年が当宮御祭神神功皇后様が神上



がられてより千七百五十年に当たり神功皇后壹千七百五十年式年大祭を斎行し、以後、恒例祭として祭典を斎行しております。神功皇后様は八幡大神と讃えられる応神天

穀豊穰が祈念されました。また大祭期間中の3日から5日には表参道にて大宮八幡植木市が開催され、新緑の木々のもと参拝者で賑わいを見せていました。

皇の御母君であり、皇后が身籠もられたまま三韓を平定なされた故事から応神天皇は胎中天皇とも尊称されています。おふたりへの敬仰は聖母大神(聖母大菩薩・神功皇后)と八幡大神(八幡大菩薩・応神天皇)との母子信仰(聖母信仰)、そして子授け・安産・子育ての神として当宮に古来より受け継がれています。愈々の御神威の発揚と御加護をお祈り致します。祭典をご奉仕致しました。



「国旗のある自由画コンクール」作品展

6月18日より7月9日まで、一般社団法人国旗協会主催の「国旗のある自由画コンクール」で金賞・銀賞入選の巡回作品展が神門北翼廊ブルーボードにて展示されました。大宮幼稚園の園児も銀賞を受賞しました。

一万人のお宮奉仕 禁足地清掃奉仕

全国各地の神社仏閣にて清掃奉仕活動を展開している「一万人のお宮奉仕」活動が6月23日に当宮にて行われました。正式参拝の後、禁足地へと足を運んだ参加者は真心込めて清掃奉仕活動を行いました。午後には宮司の講話を拝聴、懇談の後解散。8月9日には再び清掃奉仕に訪れました。



東京都神社庁 設立75周年記念 総会

6月24日、東京都神社庁設立75周年記念総会が明治記念館にて行われ、当宮責任役員藤枝宏友氏が出席。神社関係特別功績表彰を受賞されました。



夏越の大祓神事・臨時大祓神事

水無月夏越の大祓神事が、6月30日午後4時より斎行されました。それに先駆けて昨年同様にコロナ禍における三密回避のため一般参列希望の方に26日から30日の祭典前まで臨時大祓神事を行いました。神職の説明により各自切麻と形代（人形）にて自祓を行い、大麻によるお祓いを受けた後、茅の輪とコロナ禍退散の笹の輪を潜り半年の穢れを祓い、コロナ禍の終熄を祈念しました。当日は役員総代、敬神婦人会りんどう会役員等



が参列しました。まず宮司に合わせて、参列員が大祓詞を奉唱次に切麻と人形（形代）による自祓の儀の後、天と地が祓われ、八針神事が行われました。左右左と茅の輪と笹の輪を3度潜り社殿へと参進し、大祓修了奉告

祭並びに大祓詞等浄書奉納奉告祈願祭を斎行。ご神前には6月19日から27日まで神社と敬神婦人会りんどう会の共催で開催された大宮八幡宮水無月書写会にて浄書された170巻の大祓詞等が奉納されました。

東京都八幡会 奉祀神社神威景仰祭 総会並びに研究会

全国八幡宮連合会東京都八幡会（会長 当宮宮司）総会並びに研究会が7月5日、当宮総合結婚式場清涼殿にて行われました。それに先立ち八幡大神奉祀神社遙拝並びに神威景仰祭併せて全国八幡宮連合会東京都八幡会総会開催奉告祭が斎行されました。祭典には総会参加者が参列し、八幡大神様の



益々の神威発揚を祈願。その後、来賓に本部事務局長の佐波近尚氏（石清水八幡宮禰宜）を招き総会が行われました。引き続き開催された研究会には奈良大学名誉教授で國學院大学特別専任教授の上野誠先生が登壇され「万葉集と東アジア一令和を生きる」と題し講演。軽妙な語り口と深い学識で参加者を魅了しました。



平安の雅び第23回乞巧奠・ 平成の七夕大宮八幡乞巧潜り神事

平安朝の七夕飾り乞巧奠を再現した平安の七夕乞巧奠が、7月1日より15日まで清涼殿ロビーにて展示公開されました。七夕は7月7日の節供で、奈良時代に入って来た中国の牽牛と織女の星祭の伝説と裁縫や書道・詩歌・管絃などの上達を祈る女性の祭りである乞巧奠の行事が、日本古来の聖なる乙女棚機つ女の信仰と習合した行事です。当宮では平成11年の天皇陛下御即位十年を奉祝して第1回平安の七夕乞巧奠を開催し、今年で23回目を迎えます。7日の夕刻には社殿にて七夕の神遊（芸芸上達祈願祭）が斎行され、次いで神門前に設けられた梶の葉に七夕人形、五色の吹き流し、五色の布を垂らした平成の七夕大宮八幡乞巧潜りを、宮司以下神職が左右左右と3度潜る乞巧潜り神事を斎行しました。その後清涼殿ロビーに進み乞巧奠を拝礼。また神門内神楽殿前には、大きな笹竹が8本設置され、参拝者の願い事が書かれた短冊によつて華やかに彩られました。

の後、来賓に本部事務局長の佐波近尚氏（石清水八幡宮禰宜）を招き総会が行われました。引き続き開催された研究会には奈良大学名誉教授で國學院大学特別専任教授の上野誠先生が登壇され「万葉集と東アジア一令和を生きる」と題し講演。軽妙な語り口と深い学識で参加者を魅了しました。



東神杉並支部 視察研修旅行 (東北方面)

東京都神社庁 杉並支部の形代流し神事を兼ねた研修旅行が、7月8日から9日にかけて当宮より宮司、田村権禰宜を含む8名参加で行われました。今回は岩手・青森方面を巡る旅行で、8日は岩手県田野畑村のホテル羅賀荘に宿泊。翌9日は田野畑村島越港より北山崎断崖クルーズ観光船に乗船。下船後、港内に流れ込む河川で形代流し神事を齋行。島越ふれあい公園では、17・9m潮位を示す津波高表示塔や大津波追悼記念碑、被災以前の姿のままの宮沢賢治の詩碑等東日本大震災の被災状況を視察。その後島越駅より三陸鉄道リアス線に乗車し、車中より復興状況を視察。久慈駅にて下車の後、久慈市情



山下道也様、車椅子を奉納

西新宿デンタルクリニックの院長で篤志家の山下道也様がこの度、車椅子を2台奉納されました。これはバリアフリー化の一環として身体の不自由な方の利用に貸し出されます。山下様は当宮を殊の外崇敬され、これまで毎月「月代り御幣」を拝受、普段より境内各所の提灯や初午のぼりなどをご奉納頂き、またコ



口ナ禍においては早々に多量のマスクのご奉納を頂いております。

報交流センターを見学。食事の後、青森県八戸市へ移動し櫛引八幡宮を正式参拝し、国宝館で国宝赤糸威鏡、同白糸威鏡取鏡等を拝観しました。その後盛岡駅より新幹線にて帰路に就きました。

萬家一斎様来宮

浮世絵師の萬家一斎様が7月13日に来宮され宮司と懇談、正式参拝を行いました。萬家一斎様には当宮の御鎮座950年祭を奉祝し、御祭神の御姿を描いた「神功皇后三韓平定之図」をご奉納頂いたほか、「昇龍乃図」や「親子鶏乃図」をご奉納頂いております。



第21回納涼大宮天神こどもまつり 「杜のひびきinおおみや」・書画行燈



大宮八幡の夏の風物詩第21回納涼大宮天神こどもまつりが7月24・25日の両日、行われました。24日は午後5時30分より宵宮祭が斎行され、大宮幼稚園をはじめ近隣の小中学校、一般の有志の方々より寄せられた527点の書

画、行燈363基の献灯式が行われ、参道・境内を照らしました。25日は午後5時30分より大宮天神祭が斎行され、続いて午後6時30分から「杜のひびきinおおみや」(時間をはずした日の祭事)として、和太鼓の響道宴氏による新型コロナウイルス感染症の熄滅を祈念する奉納演奏があり、迫力のある和太鼓(阿門)と剣舞(かむひ・サムライアーティスト)に篠笛(武田朋子)のコラボレーションが鎮守の杜に響き渡りました。





多摩清水社例祭

「水の日」の8月1日、葉月朔旦祭に続いて多摩清水社例祭（水神祭）が斎行されました。社殿入口の俳人阿波野青畝の句碑には、「広き野に霊の清水のあるところ」と詠まれ、「多摩の大宮」といわれていた武蔵野の面影を伝え、今日に至るまで御神水が湧き出ています。

清掃奉仕

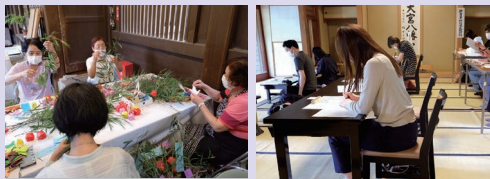


わかば祭りを迎えるにあたり、4月24日に御垣内清掃奉仕が行われました。12名の役員・会員は正式参拝の後、御垣内を掃き清め拭きあげました。秋の清掃奉仕は9月11日に行われる予定です。

りんどう会だより

水無月書写会

大宮八幡宮水無月書写会が6月19日から27日まで神社と共催で開催されました。書写会の参加者は年々増加の一途をたどっており、本年は170巻の大祓詞等が浄書され、大祓神事後御神前に奉納されました。また6月27日には、大宮幼稚園の園児達やりんどう会会員によって奉製された飾りが小笹に飾り付けられ、福笹として約450体が6月26日から大祓神事に参列された方々に授与されました。



第38回戦没者慰霊祭

終戦記念日である8月15日、当宮と兼務社の氏子区域から出征された英霊をお慰めする第38回戦没者慰霊祭が清涼殿特設会場にて斎行されました。今年も全国戦没者追悼式に合わせ正午の時報を合図に黙祷。次いで慰霊祭となり、当宮と兼務社の氏子の英霊329柱に慰霊と感謝の誠が捧げられました。



神社に軍鶏がやってきました！

平良徹様より軍鶏の雛5羽が奉納されました。現在鶏小屋にて3羽が成鳥に育ちつつあり、境内に元気な鳴き声が響き渡る日も近そうです。



ロケこもごも

- 5月25日 TBSドラマ「リコカツ」撮影
- 5月30日 ABEMA TV 「GENERATIONS高校TV」撮影
- 6月1日 男性アイドルグループ JO1 開運成功祈願

なお春の大祭号で紹介しました情報誌『和合WAGO』の宮司のインタビューと安倍昭恵氏（前内閣総理大臣夫人）の当宮参拝記事が同誌第40号（7月1日発行）に4頁にわたって掲載されました。

戌の日詣りは

聖母大神・子育八幡さまの当宮で

安産祈願祭を！

※戌の日以外でも随時お受けしております

ご祈願の方には大宮八幡息長帯（安産腹帯）と共に、へその緒で結ばれたお母様とお子様ご健康にご出産の時を迎えられますようにとの願いが込められた「母子緒守」と「安産祈願絵馬」を特別に授与しております。



戌の日の早見表

（令和3年9月〜令和4年1月）

1月	12月	11月	10月	9月
9日(日)	4日(土)	10日(水)	5日(火)	11日(土)
21日(金)	16日(木)	22日(月)	17日(日)	23日(祝・木)
	28日(火)		29日(金)	

は大安の日です



安産祈願絵馬
母子緒守
大宮八幡息長帯

大宮八幡の杜 秋も深まり

第43回 杉並大宮菊花展

杉並大宮菊の会の主催による杉並大宮菊花展が、10月30日より11月23日まで開催されます。杉並区内外在住の菊の愛好家の方々が月毎に「菊づくり講習会」を開いて丹精込めて育てられた様々な菊の大輪が境内を彩ります。七五三シーズンになるとたくさんのご家族がこの前で写真を撮る光景が見られます。



神符奉戴式を斎行

令和4年の新春を清々しく迎えるため、神宮大麻頒布式並びに氏神社神符等奉戴式が、11月初旬に斎行されます。御神前において大宮大麻・三宝荒神などの御神札に御霊遷しをして、神宮大麻と併せて頒布始めの由を大神様にご奉告致します。各ご家庭や会社の事務所の神棚に、神宮大麻や氏神様の新しいお札をお祀りしましょう。



新嘗祭

新穀を神前にお供えし、秋の収穫を感謝する新嘗祭が、11月23日（勤労感謝の日）に斎行されます。五穀豊穡を祈る春の折年祭（春の大祭）と対をなすお祭りです。宮中を始め全国津々浦々の神社で斎行されます。当宮では大宮幼稚園の稲田で園児たちが丹精込めて植えて育てた稲穂をはじめ、氏子・崇敬者や企業からのたくさんのお穀・神酒・野菜・果物などが拝殿内に庭積機代物として奉供されます。



庭積機代物

第30回 杉並花笠祭り

12月11日（土）、第30回を数え、今や初冬の風物詩となった杉並花笠祭りが予定されています。サミット株式会社と当宮の共催で、山形県などの後援を得て開催されます。この花笠祭りは例年、ご本殿で杉並花笠祭

り開催奉告祭を斎行の後、御神酒の鏡開きや花笠踊りのパレードが奉納され、表参道では山形の名物芋煮や御神酒（六歌仙）が無料で振る舞われます。山形県特産の農産物などの露店が多数出店され、約2万人を超える参拝者で賑わいますが、昨年は新型コロナウイルス禍の対応のため、やむ無く中止と致しました。今年も同様に厳しい状況ですが、多少形を変えても開催できないか関係者で検討を進めており、ホームページなどで逐次お知らせして参ります。



「幸先詣」ご案内

当宮では昨年より、新型コロナウイルス感染症対策の一環として年末のうちに新年の御札、干支土鈴、干支絵馬などを頒布する「幸先詣」を実施しております。新年三が日は混雑が予想され、ソーシャルディスタンスを確保できない可能性が高いため、旧年中にお詣りをされ、新年の「幸」を「先」に戴き、安心して新春をお迎え致します。

令和4壬寅年 12月1日より授与所にて受付開始 「新春初祈願祭」のご案内

当宮では、令和4壬寅年の新春にあたり、皆様のご健勝・ご繁栄をお祈りする新春初祈願祭を1月1日午前0時より連日随時ご奉仕致します。また企業や団体関係の皆様には、仕事始めの祈願祭のご予約も承っております。年の初めに、社員・ご関係の皆様お揃いで八幡大神様のご神徳を戴かれ、新しい年が幸多き更なる発展の年となりますよう祈願祭を奉仕致します。

初宮詣芳名 (敬称略)

(令和3年3月21日〜7月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

- 瀧季之介 大川晟
- 菅内柚乃 石川辰紀
- 大島芽依 石川瑞紀
- 清水ゆう菜 石川碧波
- 石田唯央 石川恵介
- 宮田裕聖 武井玲佳
- 清水裕晴 大木莉帆
- 進藤依斗 西尾悠翔
- 多田咲己 杉原涼
- 細野倫太郎 住本壮
- 藤田悠理 小田一晴
- 耕田彩冬 加勢陸
- 谷口宗太郎 須藤紗雪
- 春日惟花 川崎善成
- 日比航太郎 仙田結彩
- 齋藤蘭 兒島奈桜
- 中川泰斗 西統也
- 安藤優那 佐々木陸
- 高橋知世 横田善一
- 清水豪己 秦悠一郎
- 満留雪 三上蒼真
- 松浦雪斗 小畑大雅
- 藤牧笑麻 榎植心結
- 北原翠 石塚理恵
- 石原聖人 三井理親
- 加藤聖士 村澤彬丞
- 濱田壮汰 関川朝太
- 吉田成寿 大矢詠太
- 大塚今人 本間沙麗
- 鈴木真織 田中理功
- 関口凛 柴田真依
- 大神田悠生 森本光
- 山本頼興 岡本紗英
- 永島未彩 黒田すず
- 永島慎之助 岸本明樹
- 笹子千晃 桃井遙大
- 鎌倉星太 福田実愛
- 曾根風人 津島和佳
- 杉浦琉楓 長谷川美咲
- 島方結大 松永英士
- 榎垣亮 西森果穂
- 木ノ下晴賀 加藤瑚友花
- 串上都希 佐野寛
- 出浦大詩 平野寛司
- 三浦和也 中田瑠樹
- 古屋花步 戸塚琴音
- 福司龍也 山下陽結
- 竹田健晴 湯田悠結
- 青木雷蔵 片野ちはな
- 田中天琉 宮本柳七

- 岡村彩人 岡村季歩
- 浅井燈真 森翔哉
- 水口恵介 大倉朱莉
- 沼田蘭 古田紗和子
- 芝崎結衣 河崎美奈
- 高取紫月 寺敷晴香
- 熊岡杏奈 鈴木和奏
- 相澤志宣 山崎大輔
- 蛭田莉玖 横村幸志朗
- 尾嶋春来 井上六花
- 横塚琉莉 井上六花
- 三浦葉 前山路
- 笹野稀 山中一巧
- 西透悟 山田稜斗
- 佐藤寧々 眞泉甘雨
- 深見優希 田中孝明
- 田倉格 眞泉甘雨
- ワルバース来音 小川剛広
- 松本莉心 皆川おと
- 中島咲菜 麻生航
- 伊藤颯祐 新居佑宝
- 石塚翔真 石津希実
- 堀幸志 児玉濤音
- 谷川直太郎 横田瑞季
- 須藤菜風 五十嵐青央
- 小川葵 道邇爽太
- 竹村紬希 大谷芽衣
- 前田昌紀 都築星碧
- 北崎心遠 豊島由之佑
- 下瀬倫士 橋本士恩
- 松井悠人 加藤七瀬
- 成戸真純 佐久間創巳
- 高橋直仁 渡邊雅平
- 星優衣香 小林響
- 長谷川文 横倉里緒
- 高橋智督 寺内太郎
- 常深真弘 岡崎由惟
- 竹内一花 名波慧
- 佐藤大真 林ほの花
- 川俣揮人 塚本杏菜
- 新田大和 永井賀土
- 野野瑞己 望月健太郎
- 高橋葵衣 古川叶
- 森尾飛鳥 岡田玲依
- 宅島朔 中島匠登
- 安田二莉香 岩崎凌大
- 倉本佑悟 渡辺響希
- 高橋怜 小川英恵

- 木田遼也 薄葉玲奈
- 北元美心 田中鈴七
- 藤村桔平 高山暖
- 古田紗和子 内田凱貴
- 河崎美奈 浅見穂飛
- 寺敷晴香 明和史香
- 山崎大輔 萩原由依
- 横村幸志朗 比留間詩
- 井上六花 一楓華
- 前山路 島田菜々心
- 山田稜斗 市川由珠
- 眞泉甘雨 野口藻花
- 田中孝明 佐藤美都葉
- 田中瑞季 小森礼美
- 小川剛広 榑井理央奈
- 皆川おと 有坂平史
- 麻生航 小畑大雅
- 新居佑宝 山崎文葉
- 石津希実 山崎文葉
- 児玉濤音 竹本有美
- 横田瑞季 竹本有美
- 横田美奈 千葉時歩
- 道邇爽太 関谷柚月
- 大谷芽衣 尾崎聖奈
- 都築星碧 石山蒼也
- 豊島由之佑 山下木楓
- 橋本士恩 柏木加糸
- 加藤七瀬 山下木楓
- 佐久間創巳 石山蒼也
- 渡邊雅平 飯岡成志朗
- 小林響 竹崎優輝
- 横倉里緒 鈴木いちか
- 寺内太郎 渡辺陽
- 岡崎由惟 渡野翔大
- 名波慧 岡田萌香
- 林ほの花 一木佑
- 塚本杏菜 高橋菜那
- 永井賀土 渡邊紗奈
- 望月健太郎 横田佑理
- 古川叶 黒沼礼
- 岡田玲依 田中翠
- 中島匠登 堀内遙太
- 岩崎凌大 植田有風
- 渡辺響希 森田悠悟
- 小川英恵 佐藤咲菜
- 松本柳七 松本咲菜
- 高橋怜 中村天音
- 渡辺響希 渡邊凛



どんぐり通信

おおかやまちゃん

ワクワク保育

4回目の緊急事態宣言が発出され、幼稚園では保育内容を色々検討することになり、夏休み前の年長組の大イベント「お泊り保育」もその一つとなりました。今までのお泊り保育では、夕方集まり次の日の朝まで全員の先生とお友達と、園内に泊まりました。その中でゲームをしたり、「スイカマン」といってすいかの化身を作ったり、先生たちが作った「カレーライス」を園庭で園長先生と食べた、園バスを使って「夜の街へドライブ」に行ったり、火花を見たり、ホールに布団をしきつめ皆で寝たり、卒園児からいつも「もう一度お泊り保育したいな」と必ず声が上がるとい出に残る行事です。又、お家の方と離れて一人で泊まりするので、前日まで「行かない！」や「ドキドキする！」とやって緊張しているお友だちもいますが、終わると大きな自信となり、成長を感じる保育となっています。それが、今年もこの内容では出来なくなりましたので、去年より規模を縮小し、出来るだけ楽し

い思い出になるよう考えました。名前は「ワクワク保育」。3クラス合同ではなく、1クラスずつ3日間行いました。当日、子どもたちは私服で夕方から登園することで、いつもと違うことに大興奮！まず、すいか(ピーチボール)運びゲームをし、1位のグループからプレゼントが貰えるのでグループごと作戦会議をし、皆真剣でした。次はスイカマン作り。「目はまるにしよう！」「髪の毛が欲しい！」「口は大きく開けて…」などなど、クラスごと個性あふれる顔が出来上がり大満足でした。先生方が作ったカレーライスをいただけば「こんなカレー食べたことない!!」「先生美味すぎる!!」「おかわりある?」と、とても嬉しい言葉を言ってくれました。先生方による劇や、天井に映し出されるビデオを寝ながら見て、最後は「火花」。今では、家庭であまり出来ないのです。沢山の火花にうっとりして大歓声!!の子どもたちでした。夕食以外は全てマスク着用ですが、全員の先生方に思いっきり遊んで頂いた一夜となりました。今までと同じではありませんが、出来る事をきちんと対策をして楽しめた事、又、開催させて頂けたことを神様に感謝したいと思います。早くコロナが終息してくれることを祈るばかりです。

教諭 奥村佳代子



- 志賀美月葉 石井花歩 中谷優斗 池田伊織 藤田大馳 山本芹 落合鈴菜 近藤優紘 井上琴葉 佐中慧 寺島凜 千石果歩 宮田千咲 大浅律弥 長山和叶 川本結依 石野のどか 伊藤青 深澤煌 才藤隆紀 三内家奈 櫻井咲里 村上紫 伊東諒晟 遠山琉太 佐々木智史 本多唯人 藤田優介 冠城奏多 青野柚季 中川原陽 中川菜野 山手拓空 宮澤新 林紗菜 酒田涼矢 飯田涼花 石井まな帆 渡邊涼衣 山田英美 湯淺葵月 石井彩人 井手拓空 宮古至 丹伊田大地 秦二花 福井由 野村旬花 白川渚朝 安心院乙綺 山下小夏 阿部琉衣花 加藤夏夏 藤田陽 山口弥織 山口智悠 藤原瑠璃奈 熊谷結莉佳 垣耀史 荒井六花 福田陽南乃 出口陽菜 西岡楓花 島田真悠 佐々木真悠 三井例稀丸 工藤弓伶 澤邊翠泉 高木心結 水澤茉佑 高澤春陽 樋川みら 池田想句 菊池琴羽 山中瑛士郎 笹沢蘭童 丹澤東風 唐澤東風 大林功佑 村瀬蘭 杉山慈 塚田峻 安田美琴 谷口湊音 加藤富士 加藤紀世 大形仁乃 小川華永 藤本珠緒 長田晴 宮本航太郎 酒本悠晴 中野維音 白川優希人 横田結奏 戸澤潤 及川真依 永井陽大 島田翔向 定大翔 矢部愛之助 丹澤新 内藤悠莉 水島悠晴 長谷川晴一 桑岡悠 森光風 佐々木海璃 高橋茉莉花 岡田碧 飯原綸有 林佑樹 清水羅生 白石陽々 下之園木純 西村侑志 島村啓慈 佐野眺音 秋山陽乃 齋藤璃乃 中西翔海 橋本直旺 寺田椿 小松未燈 澁谷惟織 三尾彩花 深田彩月 深田和 杉原壯祐 大貫那月 山本武虎 山本陽南 久米千通 持田透吾 原野悠里 伏屋晴瑠 天野晴太郎 石田結里華 奥山滯 輿地咲帆 沖波 飯田莉心 上村想介 大上想介 岡田碧 白井琴 飯原綸有 林佑樹 清水羅生 白石陽々 下之園木純 西村侑志 島村啓慈 佐野眺音 秋山陽乃 齋藤璃乃 中西翔海 橋本直旺 寺田椿 小松未燈 澁谷惟織 三尾彩花 深田彩月 深田和 杉原壯祐 大貫那月 山本武虎 山本陽南 久米千通 持田透吾 原野悠里 伏屋晴瑠 天野晴太郎 石田結里華 奥山滯 輿地咲帆 沖波 飯田莉心 上村想介 大上想介 岡田碧 白井琴 飯原綸有 林佑樹 清水羅生 白石陽々 下之園木純 西村侑志 島村啓慈 佐野眺音 秋山陽乃 齋藤璃乃 中西翔海 橋本直旺 寺田椿 小松未燈 澁谷惟織 三尾彩花 深田彩月 深田和 杉原壯祐

七五三風景



- 横田結奏 三浦修 井上穂香 渡邊綾音 多田壯佑 三橋衣吹 高松弘人 片田蒼介 津田蒼介 片山滯 奥山滯 輿地咲帆 沖波 飯田莉心 上村想介 大上想介 岡田碧 白井琴 飯原綸有 林佑樹 清水羅生 白石陽々 下之園木純 西村侑志 島村啓慈 佐野眺音 秋山陽乃 齋藤璃乃 中西翔海 橋本直旺 寺田椿 小松未燈 澁谷惟織 三尾彩花 深田彩月 深田和 杉原壯祐

祝七五三詣

七五三年齢表

七歳 女兒	平成27年生
五歳 男児	平成29年生
三歳 男・女兒	平成31年生
	令和元年

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

七五三レンタルプランご予約

ご予約：毎日朝 10時～夕方 5時まで

お子さまの健やかな成長と幸せな未来をお祈りする七五三詣晴れの日を迎え、お子さま自身もひとつ成長した誇らしさ、可愛らしさを胸を一杯にすることでしょう。だからこそ、大切な記念日をご家族皆さまの大きな愛で素晴らしい一日にしてあげましょう。

大宮八幡宮で全てをお決め頂ける展示ご予約のご案内です。七五三のお祝い当日も同じ会場です。熟練のスタッフがご参拝される皆様の大変な記念日をお手伝いさせていただきます。皆様のご来会を心よりお待ちしております。

秋の大祭後の主な祭典行事

10月30日～11月23日 第43回杉並大宮菊花展

11月上旬 新年度神宮大麻頒布式並びに氏神社社神符等奉戴式

11月15日 月次祭並七五三祝祭

11月23日 新嘗祭

12月11日 第30回杉並花笠祭り

12月31日 大祓(年越大祓) 除夜祭

令和4年

1月1日 歳旦祭

1月2日 小笠原流墓目の儀・大祓式

1月3日 元始祭

1月15日 古札焼納祭(とんど焼)

結婚式挙式者芳名(敬称略)

(令和3年4月1日～8月31日)

岩月亮・怜子 猪鹿倉俊彦・周子
木村亮・明日香 下玉利典久・和美

大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月14日~19日



菊被綿飾り



参進



奉茶の儀



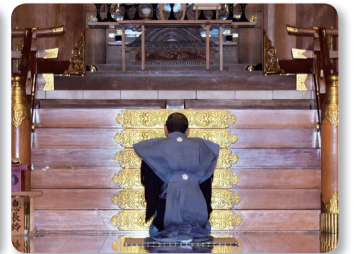
本庁幣奉献



献幣使祭詞奏上



氏子幣奉献



氏子祈願詞奏上



朝日子の舞奉奏



浦安の舞奉奏



宮司に合せ祭員拝礼

大 宮 第121号
 令和3年 秋の大祭号
 令和3年9月1日発行

大宮八幡宮社務所

〒168-8570
 東京都杉並区大宮2-3-1
 電話(3311)0105 FAX(3318)6100
 Mail: info@ohmiya-hachimangu.or.jp



園児民謡踊り 14日(年長組のみ)



園児神輿宮入り 15日

大宮幼稚園